

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 10月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675300240号		
法人名	医療法人 拓和会		
事業所名	グループホーム なでしこ		
所在地	鹿児島県 始良郡 始良町 東餅田 428番地 1 (電話) 0995-67-7230		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月2日	評価確定日	平成21年10月24日

【情報提供票より】 (21年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤8人 非常勤2人	常勤換算8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	167 円
敷金	有() 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無()	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要 (9月15日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2	0名			
要介護3	1名	要介護4	3名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.4歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星雲会病院	山下わたる内科	宇都歯科診療所
---------	-------	---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは幹線道路から少し入った便利な住宅街に、母体医療機関に隣接して設置されている。広い庭園に木々や季節の花が植えられ、入居者は静かな空間と明るい居室で穏やかに過ごしている。医療連携体制により、重度化や終末期も健康管理が徹底され、入居者や家族・職員も安心して暮らしている。職員のチームワークも良く、研修や勉強会などで介護の知識を高め、理念を基に優しい思いやりのあるケアを実践している。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は無い。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 管理者・職員は自己評価や外部評価の意義や活用方法をふまえて、全職員で取り組んでいる。改善課題や今後取り組みたい事を具体的に話し合い、評価を活かしてより高いサービスを目指している。</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は住民代表や多くの家族・職員と共に、定期的で開催している。会議ではホームの状況や課題を話し合い、地域との交流については子供会との交流などで地域とのつながりが深まり、入居者や家族に喜ばれている。</p>
	<p>重点項目</p> <p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時には、意見や要望を聞くように努めている。行事や運営推進会議等に家族の参加を呼びかけ、意見を表す機会を設けている。意見や要望は職員会議で話し合い、運営に反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議での話し合いをもとにして、地域との交流が進み地域の運動会への参加や、母体法人主催の秋祭りへの住民の参加も年々増えている。買い物等で子ども達と店で会うと挨拶を交わしたりして、地域との交流や連携に繋がっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が家族や地域との絆を大切に、生き生きと暮らせることを支えていくサービスとして、地域密着型サービスの役割を考え、事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングなどホームの見やすい所に掲示し、申し送り時や職員会議等で理念について話し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事計画を作り、自治会の運動会や地域の祭りなどに参加している。子供会との交流も行い入居者が楽しみにしている。母体法人主催の秋祭りは地域住民の多くの参加があり、地域に密着した交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、今までのサービスを見直し、改善課題など話し合った。全職員が評価の意義をふまえて評価を活かし、サービスの質向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に多くの住民代表や家族・職員を交え開催している。会議を通して地域とのつながりや家族との意思疎通など充実し、共に入居者を支えていくという目標を共有でき、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃からホームの実情やサービスの取り組みなど報告している。相談など気軽にでき、連携してサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に、ホームでの様子や健康状態など話したり、3ヶ月毎にホーム便りを発行し、写真など掲載し報告している。遠方の方には電話や手紙で報告している。金銭管理も毎月書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や面会時に意見や希望を聞くよう努め、意見や希望はミーティングで話し合い、運営に反映させている。家族からのアンケートを取り、運営に反映させる取り組みを進めるよう、自己評価で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率がよく、異動は少ない。やむを得ない異動の場合、引継ぎの期間を長く設定し、勤務体制など考慮し、入居者のダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は交代で参加し、研修報告書で、全職員が内容を共有している。ホームの研修計画を作成し、定期的に勉強会を実施している。資格取得にも積極的に勧め、協力体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加入し、研修や交流会に参加している。他ホームの見学などもあり、地域の同業者との交流や活動がサービス向上に活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、本人や家族と懇談して要望を聞き、ホームの見学等を勧め、お茶のみや行事に誘い、雰囲気に馴染んで、納得し安心しての入居となるよう、信頼関係作りに工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から昔の話や野菜作りのアドバイス・菓子作りなどを教えてもらっている。夜勤時の会話などで、なぐさめられたり、励まされる事も多く、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で、思いや意向を把握するよう努めている。職員の気づきや家族からの情報を得て職員で話し合い、本人本位のケアをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの意見や要望を聞き、主治医の意見などを参考にして全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス目標の実施状況を記録し、モニタリングを行い、定期的に計画の見直しをしている。状態変化時も随時見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による看護師の毎夕の健康チェック・受診介助・自宅訪問・墓参りなど、希望に応じて家族と相談し、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診を支援している。他科受診など、本人や家族の希望を尊重した受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を明文化し、入居時に説明している。状態変化時にも主治医や家族と話し合い、方針を共有している。ホームでの看取りによって、職員は多くのことを経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内の勉強会で個人情報保護の取り組みについて研修をしている。職員間で毎日の係わりの中での気づいた事などを注意するなど、言葉かけや対応などのプライバシー確保に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、体調や気分を尊重し、それぞれの入居者のペースで過ごしている。急がせることなく、ゆっくりとした時間を大切に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日の時などは、食べたいものをメニューに取り入れたりして楽しんでいる。野菜の下ごしらえや片付けなどを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴できるように支援している。体調や希望に添って入浴を楽しんでいる。体調不良時のときは、清拭など支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力を活かして調理の準備や後片付け・洗濯物干し・洗濯物たたみ等の役割、歌やレクリエーション・季節の花見など楽しみや気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前が庭園になっており、散歩するには最高の場所であり天気の良い日は日課になっている。東屋があり、お茶を飲んだりしている。ドライブを兼ねて自宅やショッピングにも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は入居者にとって鍵をかけないケアの重要性を認識し、心理状態や所在を確認しながら、鍵をかけないケアを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年1回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。またホーム独自で自主的に訓練をしている。災害に備え、備品や飲料・食糧の備蓄もしている。地域住民への協力については運営推進会議で働きかけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓病の入居者が多いため、母体医療機関の栄養士とともに、水分や食事量のチェックを行い記録している。一人ひとりの状態に合わせ、刻み食など支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室が南向きで、庭園に面しており自由に入居りができる。リビングの窓も大きく、ホーム全体が明るい雰囲気である。不快な音なども無く、入居者にとって居心地良く暮らせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス・鏡台など、使いやすいものが配置され、テレビや位牌などなじみのものを持ち込んだり、人形・写真を飾るなど、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。